

海外レポート

英国司法制度の現状

馬場真由子
(弁護士)

私は、2010年1月3日から6月30日までの約半年間、夫の1年間のロンドン赴任に付き添ってロンドンに滞在するという、貴重な体験をして参りました。そこで、特色ある英国の司法制度について、紹介したいと思います。英国の司法制度の解説概要及び、私が実際に審理を傍聴して見分した事、感じたことを中心に記載したいと思います。

CONTENTS

- 第1 イギリスの司法制度概要（裁判所・検察・弁護士）
- 第2 扶助制度
- 第3 弁護士偏在問題
- 第4 裁判傍聴
- 第5 おわりに

第1 イギリスの司法制度概要（巻末審級図参照）

1 イギリスの法制度概要（裁判所について）

イギリスには、連合王国最高裁判所（Supreme Court of United Kingdom 2009.10 設立）、控訴院（Court of Appeal）、高等法院（High Court of Justice）、刑事法院（Crown Court）、県裁判所（County Court）、治安判事裁判所（Magistrates' Court）の6種類があります。

以下、それぞれの裁判所の役割を簡単に説明します。

（1）裁判所

① 治安判事裁判所（Magistrates' Court）

治安判事裁判所は、主に刑事事件のうち軽微な犯罪を扱います。日本で言うと、簡易裁判所の位置づけに似ています。

なお、審理を担当する裁判官は、原則として、法曹資格のない治安判事（lay magistrate）です。大都市では法曹資格を有する地方判事（District Judge）が審理を行う場合もあります。治安判事の場合は通常3人の合議法廷、地方判事の場合は単独法廷で開廷されます。

② 県裁判所（County Court）

民事事件及び家事事件の第一審を管轄する裁判所です。日本で言うと、地裁のイメージです。民事訴訟は、原則として、高等法院及び県裁判所が競合的管轄権を有しますが、例外的に、訴額が5万ポンド以下の人身傷害に関する損害賠償請求事件及び1万5000ポンド以下の金員請求事件につ

いては県裁判所が専属管轄を有します。

全国に約 220 庁あり、単独法廷のみで、原則として巡回裁判官（Circuit Judge）が審理します

③ 刑事法院（Crown Court）

正式起訴手続に係る刑事事件の第一審、および治安判事裁判所から付託された事件の量刑手続及び治安判事裁判所の刑事事件に関する上訴審を管轄します。日本で言う、地裁刑事部のイメージです。

第一審としては、中間的犯罪のうち治安判事裁判所の裁判官が同裁判所での簡易手続には適さないと判断した事件、及び、被告人が陪審裁判を選択した事件並びに全ての正式起訴犯罪を取り扱い、被告人が争った場合は、陪審制により裁判を行います。

被告人が有罪の答弁をした場合には、陪審によることなく、直ちに量刑手続に移行することとなります。

④ 高等法院（High Court of Justice）

民事事件について、原則として、県裁判所と競合的に第一審管轄権を有します。高等法院は、大法官部（Chancery Division）、女王座部（Queen's Bench Division）及び家事部（Family Division）で構成されます。

大法官部は、会社法及び知的財産権法に関する事件等の第一審を、女王座部は、契約違反事件、不法行為事件等の一般民事事件、商事及び海事事件の第一審を管轄します。家事部では、家事事件の第一審を管轄します。

⑤ 控訴院（Court of Appeal）

民事部及び刑事部から成ります。民事部は、高等法院及び県裁判所の民事事件の判決に対する上訴を取り扱います。

ロンドンに 1 庁のみ（RCJ：下部写真）あり、民事部では 2 人又は 3 人の裁判官で、刑事部では 3 人の裁判官で審理します。

⑥ 連合王国最高裁判所（Supreme Court of United Kingdom）

後述（3）で説明します。

（2）裁判官

裁判官は主として 40 歳以上の法律実務家から裁判官が任命され、原則として、一定期間の法律実務家としての活動が要件となっています。以前は法廷弁護士（バリスタ）だけから裁判官に任命

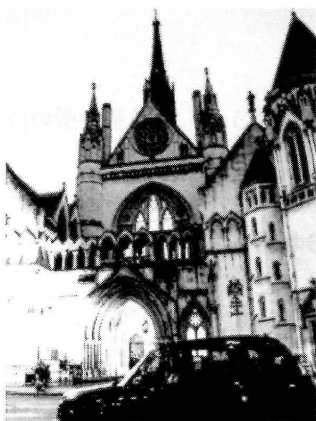
されていましたが、現在では、事務弁護士（ソリシタ）からも裁判官に任命されるようになりました。また、実際上は、常勤の裁判官に任命されるには、非常勤裁判官（レコーダー等）に任命されることが求められており、常勤裁判官に任命するに当たっては、非常勤裁判官としての活動状況や実績等が考慮されるなど、そのキャリアを重視する運用がなされています。

したがって、職業裁判官は 10 年以上の弁護士職務経験を経ているため、法廷弁護士は、裁判官を大先輩の弁護士として全面的に信頼しているようです。

（3）近況情報

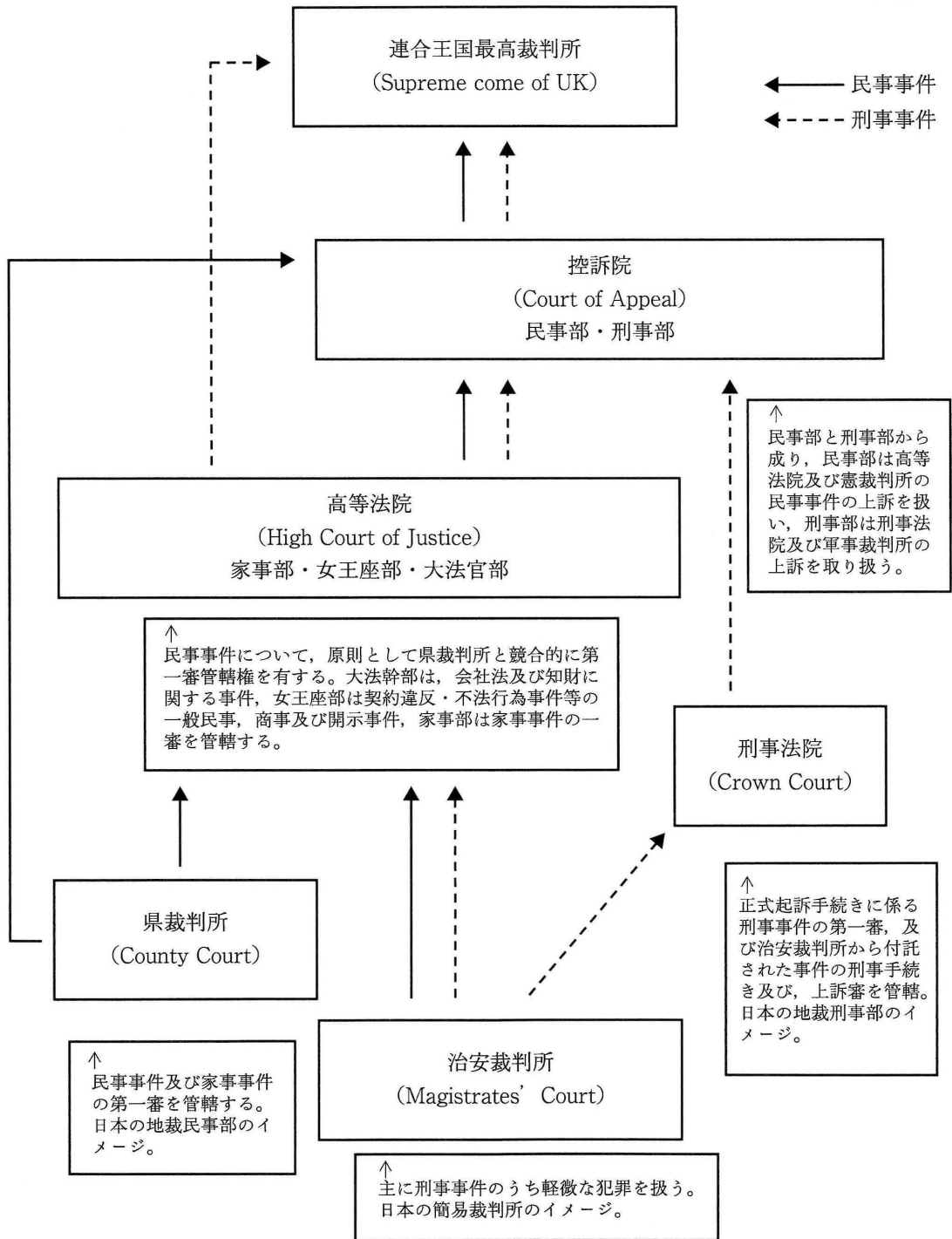
連合王国最高裁判所（Supreme Court of United Kingdom）設立

① 最高裁が設立される経緯



（RCJ の写真）

(審級図)



2009年10月までは、イギリスにおける司法府の最終審は、貴族院上诉委員会が担っていましたが、権力分立をより明確にしようということで、The Constractual Reform Act 2005により、新たに最高裁を設置して、貴族院上诉委员会の有していた権限を承継することとなりました。

最高裁は、日本と同様で法律問題のみを扱い、民事事件は、イングランド・ウェールズ、スコット

トランド、北アイルランドの事件を審理します。一方、刑事事件は、イングランド・ウェールズ、北アイルランドの事件を審理します。

② 最高裁の建物について

最高裁の建物は、旧ギルドホール（Middlesex Guildhall）の建物を改装したもので、歴史的な建造物で、ビッグ・ベンの通称で大変有名な国会の向かいに立地し、建物に向かって左側にはこれまた観光地としても有名なウェストミンスター寺院が、右側には英国財務省があるという、歴史的にも機能的にも最重要の場所にあります。

③ 館内の様子

最高裁は英国にとって最も新しい裁判所でもあり、一般傍聴人への自由な公開を強く前面に打ち出しています。最高裁のHPでは、約1週間分の審理予定が公開されており、誰でも自由にアクセスすることができます。また、正面玄関に入ってセキュリティーを通過すると案内用のカウンターがあり、見たい事件を伝え、事件の概要、担当裁判官名、代理人（counsel）名等が記載されたペーパーをもらうことができます。

地階には、最高裁の創設の過程や、司法制度の沿革等をパネル等で説明した展示室のほか、軽食がとれるカフェを併設しており、多くの来訪者を予定している施設ようです。

最高裁は、英国で唯一、審理の全課程を録画しており、傍聴席が満席の場合でも、モニターを通じて別室で審理を傍聴できる施設も備えています。

法定内には法壇がないことにまず驚きました。裁判官席は、半月型のテーブルで、代理人や傍聴人と同じ高さになっています。さらに傍聴人席と当事者席との間にバー等の仕切りはなく、したがって、傍聴人は、代理人席のすぐ後ろに座れることになります（手元の証拠や資料も覗けるほど近いです。）。

④ 裁判官（Low Lord）及び各代理人（counsel）の服装

ロンドンの裁判所では、伝統的なウィッグにガウンという格好がよく見られるのですが、最高裁の審理では、代理人はウィッグにガウン着用でしたが、裁判官は全員スーツ姿でした。最高裁創設前の貴族院での上訴の審理でも裁判官はスーツであるという話をうかがったことがあり、最高裁でもこれが踏襲されているものと思われます。

2 検察官・検察庁

(1) 検察官（Crown Prosecutor）



（最高裁判所の写真）

人数は、約3,300人です（2009年3月現在）。

法廷弁護士（Barrister、バリスタ）又は事務弁護士（Solicitor、ソリシタ）であることが通常件ですが、検察庁長官（Director of Public Prosecutions）は法廷弁護士又は事務弁護士として10年以上の経験を有することが必要となります。

選任手続については、検察庁（Crown Prosecution Service）の場合は同庁の長である検察庁長官が、重大経済犯罪捜査庁（Serious Fraud Office）の場合は同庁の長である

重大経済犯罪捜査庁長官が任命します。

(2) 検察庁 (Crown Prosecution Service)

イギリスでは我が国と異なり現在も私人訴追制度を存続させています。従前は一般に、刑事事件については、捜査を行った警察が私人の立場で訴追も行い、裁判の立会いは警察から依頼を受けた弁護士に任せていましたが、1985年に制定された犯罪訴追法 (Prosecution of Offences Act 1985) で検察庁 (Crown Prosecution Service) が創設されたことにより、訴追制度が大きく変わりました。すなわち、検察庁の検察官は、捜査には直接関わらないものの、証拠上又は公益上の観点から、警察等の訴追した事件の手続続行を打ち切るほか、原則として治安判事裁判所において公判を遂行する権限を有することとなりました。公訴提起については、2003年刑事司法法 (Criminal Justice Act 2003) 以前は原則として警察の権限とされていましたが、同法により、交通事件等の一定の軽微事件を除いて検察官の権限となりました。



(検察庁の写真)

なお、従来は検察庁に所属する検察官は法廷弁護士の資格を有していても刑事法院での弁論権が認められていなかったこともあって、現在でも刑事法院での訴訟遂行については独立開業している法廷弁護士に委任するのが通常です。

3 イギリスの弁護士制度の概要

弁護士は、バリスタ (法廷弁護士) とソリスタ (事務弁護士) に分かれています。

(1) ソリスタ (事務弁護士)

事務弁護士は、当事者から直接法律相談に応じ、その依頼を受けて契約書を作成するなどの法律事務を処理します。訴訟事件については、証拠収集、争点整理手続への出席、弁論等の準備作業を担当するものの、法律構成、法廷における弁論等は原則として法廷弁護士に委ねます。

以前は、県裁判所、治安判事裁判所において弁論活動を行うことができただけでしたが、現在は、試験に合格した事務弁護士については、法廷弁護士と同様に、上位裁判所における弁論活動ができるようになりました。

(2) バリスタ (法廷弁護士)

法廷弁護士は、以前は、上位裁判所 (刑事法院、高等法院、控訴院、貴族院) における法廷弁論権 (right of audience) をほぼ独占していましたが、現在は、試験に合格した事務弁護士も上位裁判所での弁論活動ができるようになっています。

原則として当事者から直接依頼を受けることができないので、事務弁護士から事件の依頼を受けることとなります。事務弁護士の法律相談に応じ、また、法廷で弁論することが、その主要な職務です。法廷弁護士は専門分野を持つことも多いようです。

現在は、資格を得た法廷弁護士が事務弁護士を介さずに、一般市民からの法律相談や文書作成等の依頼を直接受けることができるパブリックアクセスが始まりました。しかし、法廷弁護士が行えない事務弁護士の業務 (訴訟手続、文書の送付等) も、依然として残っています。

法廷弁護士は、ジュニア・バリスタとクイーンズ・カウンセル (Q.C., 勅選弁護士) に区分されます。これまで、勅選弁護士は、10年以上の実績のあるジュニア・バリスタの中から、大法官の助言に基づき国王が任命しており、大法官に実質的な選任権がありました。しかし、2005年7月から、応募に対して法曹関係者及びそれ以外の者で構成される選任委員会 (Selection Panel) が選任した上、大法官がこれに基づき国王に助言し、国王が任命することとなりました。また、これま

で、勅撰弁護士は、法廷弁護士のみから任命されていましたが、現在は、事務弁護士のうち上位裁判所で弁論活動ができる者についても、勅撰弁護士に任命することが可能になり、実際に任命もなされているようです。勅選弁護士になると、原則として、助言及び難事件の法廷弁論のみを行うのが通常となります。

(3) ソリシタとパリスタの関係

制度上、法廷弁護士と事務弁護士は独立かつ対等の職階で、上下関係にはありません。また、現在では、前述したように一連の制度改正により、法廷弁護士と事務弁護士の違いが少なくなっています。

第2 扶助制度の現在

イギリスは、法律扶助において世界に誇る規模・歴史を有しています。イングランドとウェールズの法律扶助を運営する組織は Legal Services Commission¹⁾ で (以下「LSC」といいます)、活動は法務省と財務省に管理されています。

LSC の通常予算は年間 20 億 pond (3000 億円) で、毎年約 200 万人の人々を援助していました。

しかし、イギリスの財政悪化の影響は LSC にも及び、LSC は 2011 年までに予算を最大 3000 万ポンド) 削減することを目指すと発表しています。その方法としてはシステムの簡素化を行い更に約 600~1,000 スタッフを削減するとされており、予算と規模を縮小しても、以前の法律扶助のクオリティーを保っていけるのが、今後の議論の焦点となると思われました。

第3 弁護士偏在問題

2009 年のソリシタ協会のレポート²⁾ に依ると、イングランド・ウェールズの法律事務所のうち約 42% がロンドンを含むイングランド・ウェールズの中心部に集中しています³⁾。このため、ロンドンでも日本の弁護士偏在の様な問題が生じているのではないかと思い、調査してみました。

ソリシタ協会及び LSC に問い合わせてみたところ、ソリシタ協会から回答を得ることが出来ました。その回答によると、弁護士偏在という供給者の問題よりも、法律扶助制度利用者への法的サービスへのアクセスの利便性という観点から議論される傾向にあり。今後はインターネットと電話とで、どちらがよりきめ細やかな法的サービスを提供できるかという議論がなされるだろうということでした。

前述したとおり、イングランド・ウェールズは、法律扶助制度が発展しており。市民は容易に司法アクセスの場を見つけることが出来ます。例えば、身近な司法アクセスの場として、市民相談所 (Citizens Advice Bureau: CAB) が全国に 2000 ヶ所以上あることが挙げられます。また、CAB では、弁護士が当番制で相談に応じる方式も採用されてきています。

実際に法務省が行った法律制度 (扶助・NPO を含む) を利用した人に対する、アンケートを含めたレポートによれば、67% の人が司法アクセスが容易であったと回答しており、イングランド・ウェールズでは市民の司法アクセスの問題はすでに解消されていると結論づけています。

また、スコットランドにあるオークニー諸島という離島を訪れた際に、裁判官と弁護士 (ソリシタ) と話す機会がありましたが、そこでも弁護士過疎という問題は存在していないという印象を受けました。

具体的に申し上げますと、オークニーとシェットラン諸島双方合計してソリシタは約 40 人いるので、4000 人の市民にとっては十分の数だといいうことでした。確かに計算すると、日本の場

合は弁護士一人当たり国民 4727 人⁴⁾、イングランド・ウェールズでも 438 人⁵⁾で、人口が少なくても法曹の数が十分であるようでした。

第4 裁判傍聴

1 雇用審判所 (Employment Tribunals)

(1) 英国の雇用審判制度

イギリスの雇用審判所は、私が審判 (Tribunals) を傍聴したロンドン中央雇用審判所 (London Central Employment Tribunals) (第2項写真参照) を始め、25 か所の審判所があり、それぞれ地域ごとに地域統括裁判官が統括しています。

雇用審判所はもともとは、労働審判所 (Industrial Tribunals) という名称でしたが、1998 年 8 月に現在の雇用審判所に名称変更されました。この背景には、従前盛んであった労働組合を中心とした、労使の対立という構造がなりを潜め、むしろ、組織内における、性差別 (Racial Orientation) や障害者差別 (Disability Discrimination) 等による個々人の訴えが増加してきたことによるとの分析がなされています。

雇用審判所は、いかなる政府機関からも独立し、公開、公平、公正な判断を行うことを目的としており、審判は、職業裁判官 1 名と、労使それぞれを代表する一般人の審判官 (lay-member) 2 名の合計 3 名が合議体を組んで行われます。

審判は原則公開なのですが、性差別等を理由とする審判では非公開 (Private) の判断がなされることも多く、その場合は、傍聴が禁止されます。私が傍聴に行った日には、かなりの数の非公開事件があったように思われました。

審判終結の後、4 週間以内に判断がなされます。この判断に不服の場合は、雇用上訴審判所 (Employment Appeal Tribunals) に上訴することができます。日本の労働審判制度では、通常の裁判に移行することになっているので、この点は、日本と異なる点です。

(2) 傍聴手続き

ロンドン中央雇用審判所 (London Central Employment Tribunals: 下の写真) は、一般のビルの中にあり、その建物の入り口も「Victory House」としか記載されておらず、外観からは雇用審判所と識別することができませんでした。入り口で受付の女性に傍聴を希望する旨伝え、ラップトップに名前・住所などの個人情報を入力され、入館者カードを作成してもらえます。受付を済ませるとすぐ隣の部屋に審判のタイムテーブルが掲示されており、公開が制限されている審判は Private と書かれています。

2 刑事事件の裁判傍聴 (サザーク・クラウンコート: Southwark Crown Court)

ロンドン南部の刑事事件を管轄する、ロンドブリッジ駅付近にあるサザーク・クラウンコートの裁判を傍聴してきました (下の写真)。入館の際には東京地裁と同様、持ち物検査をします。

(1) 陪審員の選定

法廷の開廷前は、陪審員は待合室で待っています。選定前の陪審員は 20 人位です。裁判官が法廷に着席し、弁護士、検察官、被告人が出廷すると陪審員が法廷に入ってきます。そして裁判官が陪審員の役割を説明し、12 人の陪



(雇用審判所の写真)



(サザーク・クラウンコートの写真)

審員が選出されコートクラークから名前を呼ばれ、法廷向かって右側に座ります。

その後、陪審員は事件の審理に入る前に宣誓をしますが、この宣誓の文言が宗教によって異なっていました。宣誓が終わると審理に入ります。

(2) 事案の内容

事案は、ロンドン地下鉄駅構内における暴行事件否認事件でした。凶器の所持及び態様について否認しているものでした。

(3) 法廷の雰囲気

イギリスでは一般的に、裁判官を始め、検察側代理人、被告人側代理人とも、ウィッグにガウンという伝統が守られており、法廷の威厳が保たれているように感じました。陪審員の数は12で、最低9人でも審理はできることになっていますが、基本的には全員そろわなければ開廷しないようです。したがって、どんなに重大事件で、長期にわたり審理が続く事件でも、日本の裁判員制度のように補充裁判員制度はとられていません。

被告人席は、法廷の後方にあり、ガラスの板で仕切られた狭い空間に押し込められているのですが(代理人と話しができるように隙間が空けてあります。)、日本では、弁護人席の横に座らせることも考慮されていることと比較してややカルチャーショックを受けました。

(4) 弁論(弁護人・検察官)

私が傍聴した事件は、すでに証拠調べは終了しており、検察官と弁護人の最終弁論でした。

これが実に長大なもので、長い事件の場合これだけに数日費やすそうです。幸い私が傍聴した事件は争点が明確なため、それぞれ1時間合計2時間ほど終了しました。弁護人は、まずは「被告人の権利がいかに重要であるか、反対証人がいかに嘘つきであるか。」をとうとうと述べ、被告人の主張を網羅的に陪審員に訴えます。検察官弁護人共に書面を見ながら、陪審員にアイコンタクトをしつつ、身振り手振りで弁論します。検察官が論告でパワーポイントを使うことはありませんでした(証拠調べでは使うようです)。

(5) サミング・アップ

審理が終了し、陪審員が評議に入る前に、必ず、裁判官から陪審員に向けてサミング・アップ(Summing up)が行われます。これは、裁判官から、陪審員に対して、陪審員としての責務とルールなどの一般的な説明のほか、証拠の説明、事実及び法律問題に関する説明を行うというものです。重大事件におけるサミング・アップは弁論と同様やはり長大なものとならざるを得ず、裁判官としては、最後の大仕事といえます。この事件のサミング・アップは30分ほどの非常に短いものでした。

サミング・アップで裁判官の心証を何となく感じ取るので、陪審員が裁判官の心証に誘導されないのか気になりました。

実際にサミング・アップを見た印象としては、裁判官が陪審員の目を見て、ゆっくりと話しかけるようなサミング・アップをしていたのが印象的でした。

(6) 評議・判決

審理は、検察官のオープニングから裁判官によるサミング・アップまで2日間で終了したのですが、その後、陪審員の全員一致の評決がわずか5分程度で出たため、その日の内に、評決の言い渡

しまで終了してしまいました。わずか5分間で評決がでるとは思っていませんでしたので大変驚きました。

評決の内容については差し控えますが、有罪にしろ無罪にしろ、裁判官・弁護士・検察官ともに陪審員の評議の理由を陪審員に聞くことはできません。尚、有罪になった場合には、裁判官が量刑だけを決めます。

(7) イギリスからみた日本の裁判員制度

イギリスの法曹と話す機会があった際に、日本の裁判員制度について説明したところ、イギリスの陪審制が陪審員のみで評議をする点と異なり、日本は裁判官が評議に参加するという点で、洗練された制度だと好意的なコメントを頂きました。

第5 おわりに

振り返るとこの半年はこれまでにないほどあっという間に過ぎてしまったように思います。司法制度を意識してイギリスに滞在すると、イギリスの司法制度を日本の制度と対比することで、日本の司法制度の良い点・悪い点を客観的に理解する事が出来、大変勉強になりました。今後、海外に行く機会があったら、その国の裁判所をふらりと訪れたいと思います。

以上

注

- 1) http://www.legalservices.gov.uk/aboutus/whats_new.asp
- 2) <http://www.lawsociety.org.uk/aboutlawsociety/whatwedo/researchandtrends/researchpubs/view=researchpubsarticle.law?PUBLICATIONID=425618> (Table 3.5, 3.6)
- 3) 上記2 P.19 Table 2.14
- 4) 日本の弁護士数 2万6977人(2009年3月1日現在) 弁護士一人当たりの国民の割合数 4727人(国民人口1億2751万人(2009年10月の国勢調査参照)として)
- 5) イングランド・ウェールズの法曹人口(ソリシタ・バリスタ合計) 12万3289人(2009年) 弁護士一人当たりの国民の割合数 438人(イングランド・ウェールズの人口5443万9700人として(2008年))